

2019年度前期経済学部授業評価アンケートの報告

1. 実施概要と重点課題

(1) 実施概要

授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の2回実施する。

・期間中アンケート：

(方法) 授業期間中の中間時点で担当教員が実施し、集計する。

(目的) 期間中の授業方法の改善。

・期末アンケート：

(方法) 授業期間後の成績発表時に nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 次年度以降の授業改善への活用。

・担当教員による授業評価報告書の作成：

期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて、担当教員が授業方法等の改善を検討し「授業評価報告書」を作成する。東海事務室は、担当教員が作成した「授業評価報告書」を学生に開示する。

(2) 2019年度授業評価アンケートの重点課題

①学生の総学修時間を増加させる

②授業内容を理解しやすい教材を工夫する

③シラバス（科目概要）に合致した授業進行について（全学的な課題）

2. 本報告の対象科目

報告対象科目は表1の7科目である。「経済学」、「経済経営のための数学」の2科目は必修科目である。「経営学」、「現代の医療と福祉」、「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「法律学」の5科目は、これらの中から2科目を選択して修得することが卒業条件になる必須選択科目である。これらの7科目は、経済学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

今回報告するのは、前期開講科目の3科目で、各科目の回答数は表1のとおりである。

表1 報告の対象科目と回答数

2019年度【前期開講科目】				2019年度【後期・通年開講科目】			
科目名	履修者数	回答数	未回答数	科目名	履修者数	回答数	未回答数
1 経済経営のための数学	248	238	10	1 経営学			
2 経済学	244	237	7	2 現代の医療と福祉			
3 ミクロ経済学	182	174	8	3 マクロ経済学			
				4 法律学			

3. 授業評価アンケートの集計結果

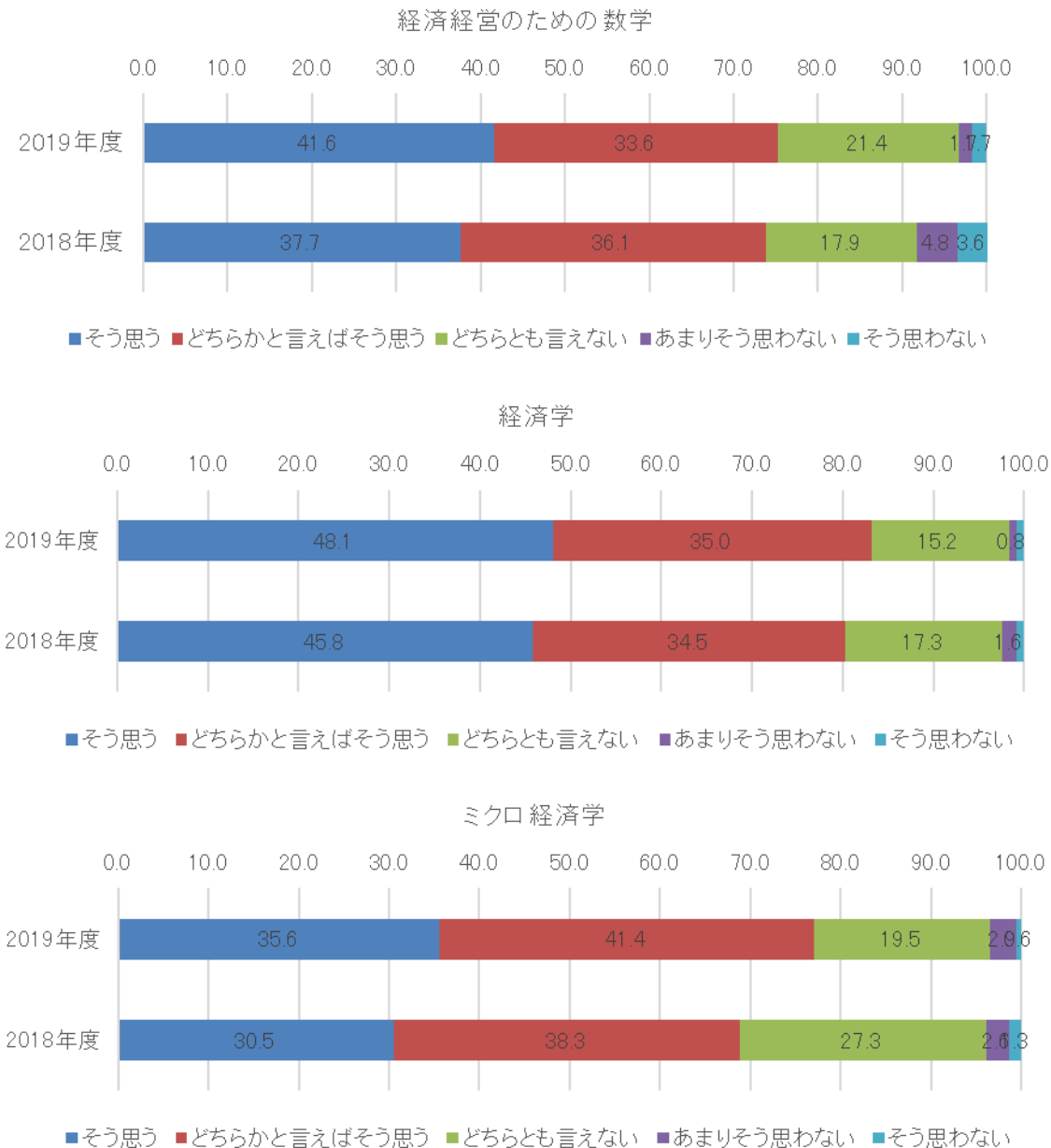
3-1. 重点課題とアンケート質問項目の関係

- (1) 学生の総学修時間を増加させる ⇒ (期末アンケート質問 6、8)
- (2) 授業内容を理解しやすい教材を工夫する ⇒ (期末アンケート質問 3)
- (3) シラバス (科目概要) に合致した授業進行 ⇒ (期末アンケート質問 10)

3-2. 重点課題別の集計結果

(1) 学生の総学修時間を増加させる

【質問 6】宿題・予習・復習をするような授業構成と教材 (テキスト・レジュメなど) になっていましたか。



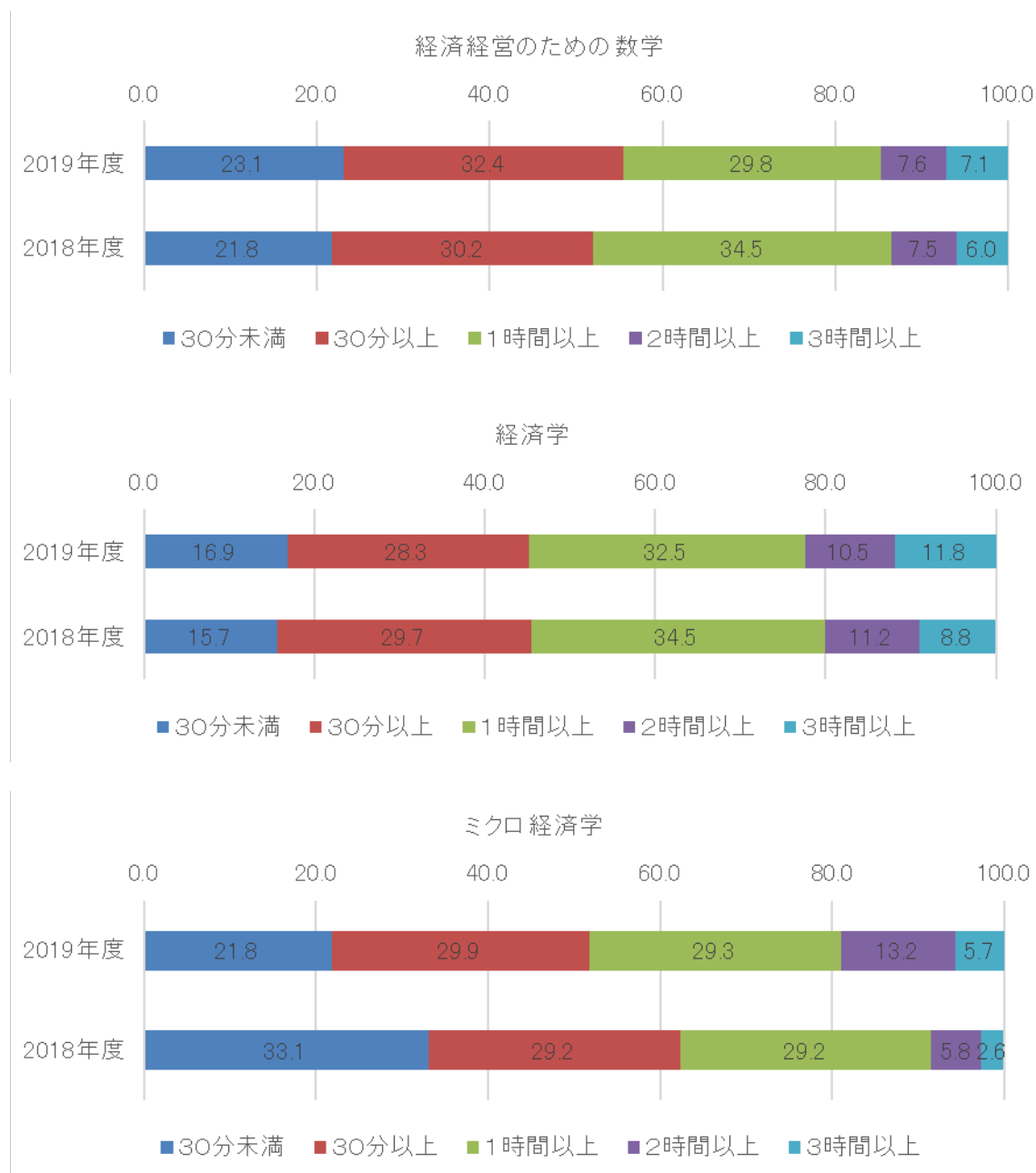
① 結果の概要

予習復習できる教材かの質問に「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生は、2019年度においていずれの科目も70%を超える。2018年度と2019年度で比較すると、「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」の構成比が大きくなった。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・平均すると2回の授業に対し1回の割合で、宿題プリントを配布した（解答は nfu.jp に掲載）。
- ・授業開始時の約5分、前回の授業内容を確認するための問題を解かせた。
- ・中間テストを実施した。
- ・一部（4回）、オンデマンド教材の予習を前提とした講義を行った。

【質問8】この科目について、1回の授業時間以外に予習や復習のためにどの程度勉強しましたか。



①結果の概要

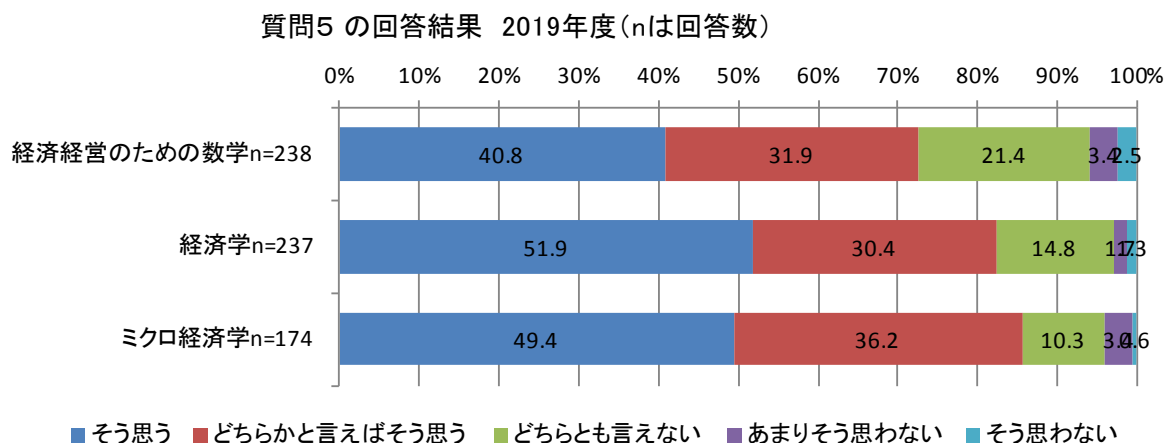
2019年度に、予習復習の学習時間が30分未満の学生は約20%、1時間未満の学生は約50%を占める。2018年度と2019年度で比較すると、大きな変化はみられないものの、2時間以上の構成比がやや増大した。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・毎回のレジュメに次回に向けての予習内容を示す、総計 15 回の宿題用紙の配布を行うなど総学修時間増加の取組は行った。その結果、授業外学修時間が 30 分以上の割合が、中間アンケート時で約 70%、期末アンケート時で約 80%となった。
- ・質問 6 宿題・予習・復習をするような授業構成と教材については、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が多数だったが、質問 8 授業外勉強時間については 174 中「30 分未以上」が 52 で多かった。一方、「3 時間以上」も 10 いた。宿題をもっと課すなど対策を考えたい。

(2) 授業内容を理解しやすい教材を工夫する

【質問 3】教材（テキスト、レジュメなど）は授業の理解に役立ちましたか。あてはまるものを 1 つ選んで下さい。



①結果の概要

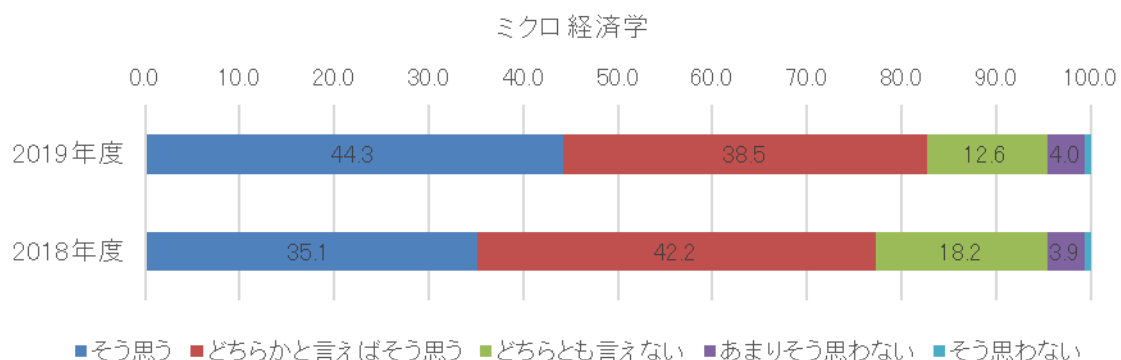
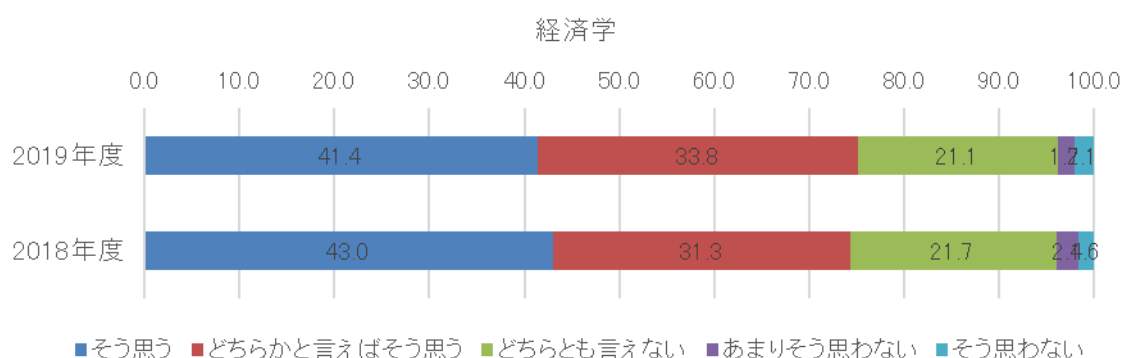
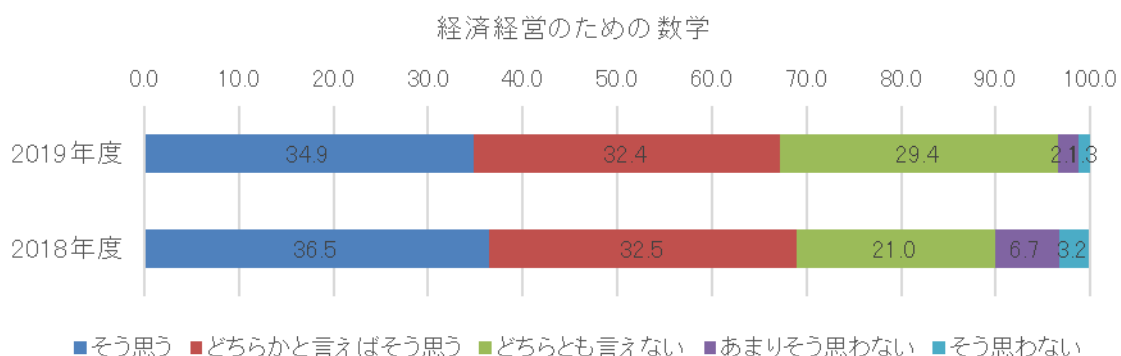
教材が授業の理解に役立ったかを問う質問 5 に「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生は 72.7~85.6%を占める。

なお、「授業内容を理解しやすい教材を工夫する」が 2018 年度の重点課題ではなかったため、ここでは 2 つの年次間での比較をしない。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・自由記述欄にはプリントはわかりやすかったと書いている人もいたが、さらにわかりやすい資料の作成を行うことができると考えている。
- ・授業中に適宜質問を受け、しばしば練習問題を出し教室を巡回して理解度の把握度につとめた。
- ・問題があるという指摘がなかったため、特になし。

(3) 科目概要（シラバス）に合致した授業進行について
【質問 10】 授業はシラバス通りにすすみましたか。



①結果の概要

授業はシラバス通りに進んだかの質問に「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した学生は、2019年度で3.4～4.6%である。「あまりそう思わない」または「そう思わない」の回答は、2018年度、2019年度ともに少数であるが、2019年度において一層縮小した。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・授業の進行は、シラバスに示した通りに進められた。期末アンケートにおいて否定的評価は非常に少ない。
- ・授業進行はシラバスに合致したものであった。
- ・ほとんどが肯定的に答えた。問題なしと判断する。

2019 年度後期経済学部授業評価アンケートの報告

経済学部教務委員

1. 実施概要と重点課題

(1) 実施概要

授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の2回実施する。

- ・期間中アンケート：

(方法) 授業期間中の中間時点で担当教員が実施し、集計する。

(目的) 期間中の授業方法の改善。

- ・期末アンケート：

(方法) 授業期間後の成績発表時に nfu.jp を用いて学生が回答する。

(目的) 次年度以降の授業改善への活用。

- ・担当教員による授業評価報告書の作成：

期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて、担当教員が授業方法等の改善を検討し、「授業評価報告書」を作成する。東海事務室は、担当教員が作成した「授業評価報告書」を学生に開示する。

(2) 2019 年度授業評価アンケートの重点課題

- ① 学生の総学修時間を増加させる
- ② 授業内容が理解しやすい教材に工夫する
- ③ シラバス（科目概要）に合致した授業進行（全学的な課題）

2. 本報告の対象科目

対象科目は表1の7科目である。「経済学」、「経済経営のための数学」の2科目は必修科目である。「経営学」、「現代の医療と福祉」、「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「法律学」の5科目は、これらの中から2科目を選択して修得することが卒業条件になる選択必修科目である。これらの7科目は、経済学部のコア的な専門科目として位置づけられる。

今回報告するのは、後期開講科目の4科目で、各科目の回答数は表1のとおりである。

表1 報告の対象科目と回答数

2019年度【前期開講科目】				2019年度【後期・通年開講科目】			
科目名	履修者数	回答数	未回答数	科目名	履修者数	回答数	未回答数
1 経済経営のための数学	248	238	10	1 経営学		173	
2 経済学	244	237	7	2 現代の医療と福祉		65	
3 ミクロ経済学	182	174	8	3 マクロ経済学		201	
				4 法律学		65	

3. 授業評価アンケートの集計結果

3-1. 重点課題とアンケート質問項目の関係

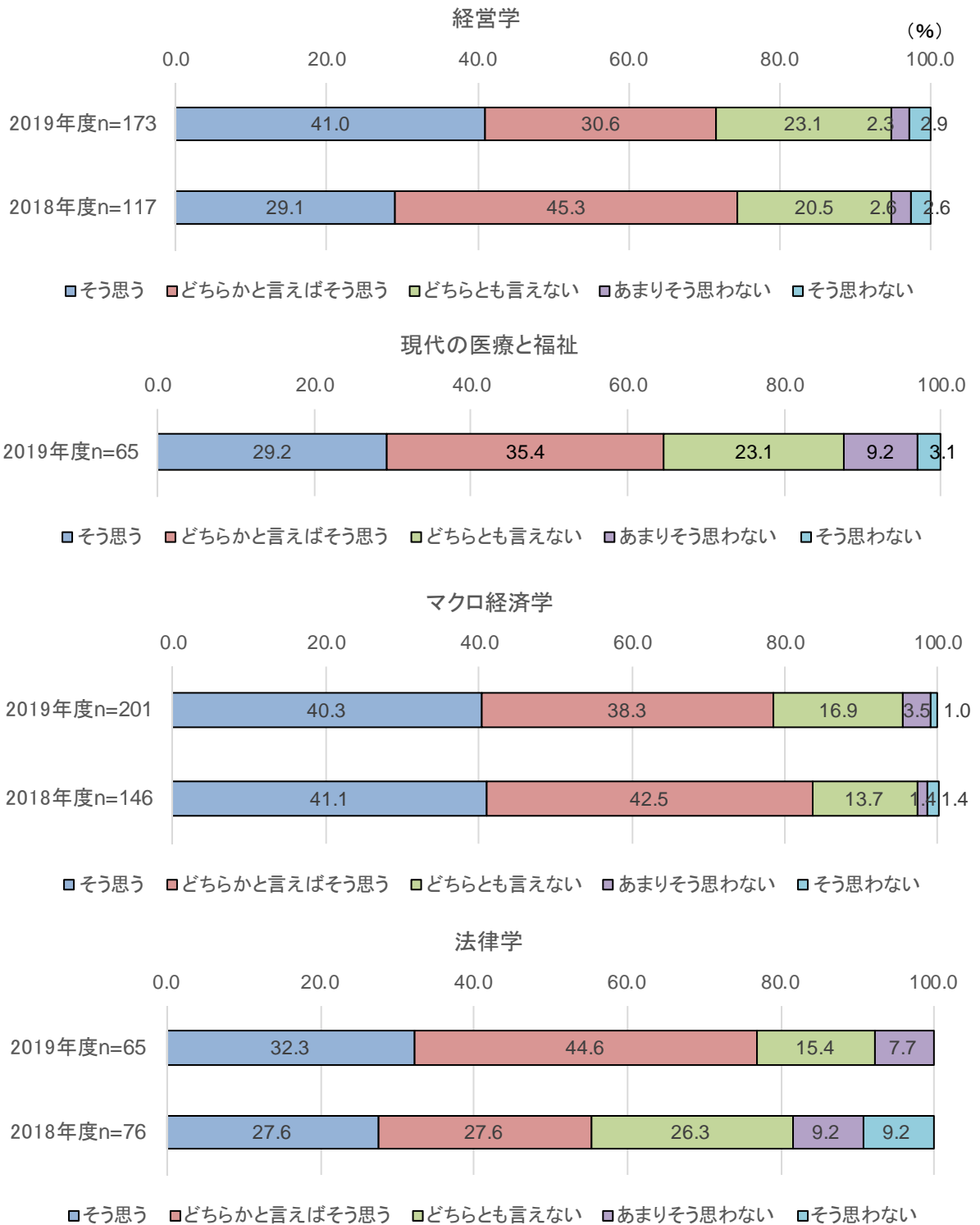
- (1) 学生の総学修時間を増加させる ⇒ (期末アンケート質問6、8)
- (2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する ⇒ (期末アンケート質問3)
- (3) シラバス（科目概要）に合致した授業進行 ⇒ (期末アンケート質問10)

3-2. 重点課題別の集計結果

注)「現代の医療と福祉」は2018年度に報告対象でなかったため、この科目の集計結果を2018年度と2019年度の2年次間で比較しない。

(1) 学生の総学修時間を増加させる

【質問6】宿題・予習・復習をするような授業構成と教材(テキスト・レジュメなど)になっていましたか。



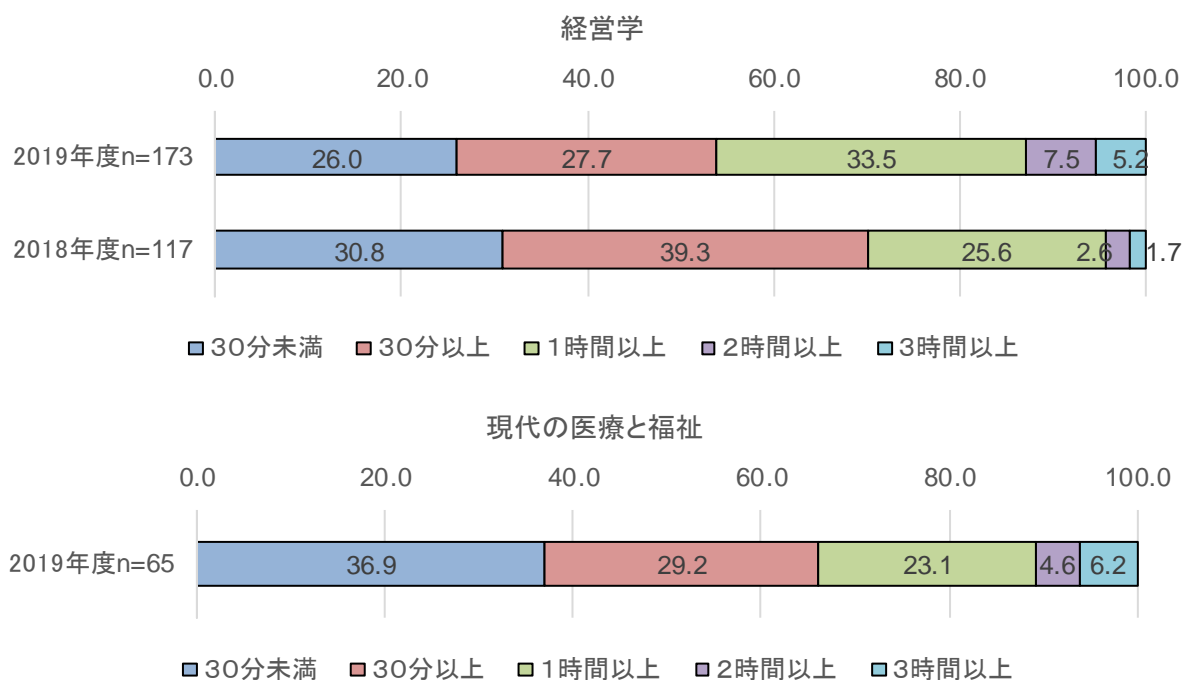
①結果の概要

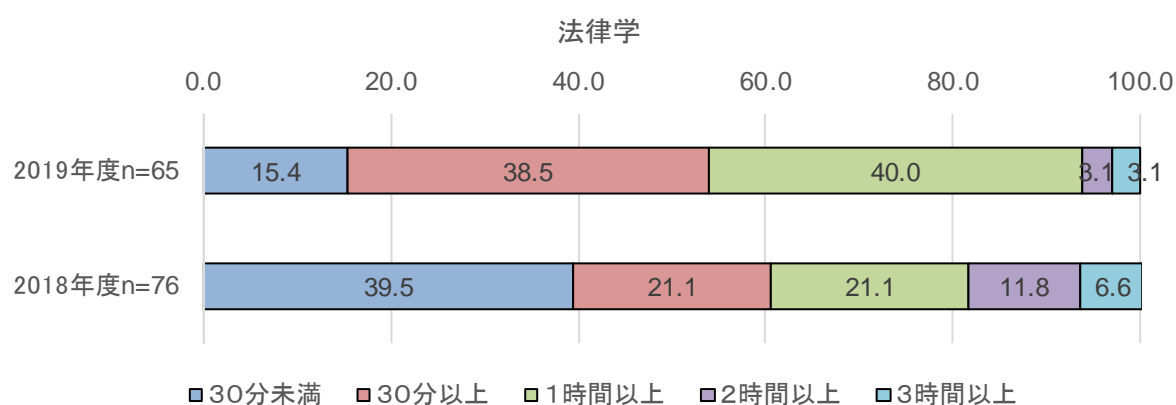
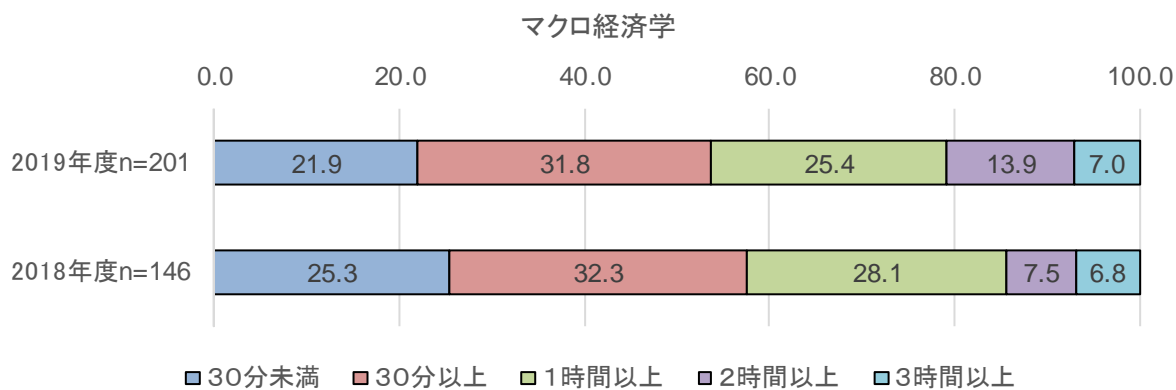
宿題・予習・復習ができる授業構成と教材かを問う質問6に「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生は、2019年度では64.6～78.6%を占める。2018年度と2019年度で比較すると、法律学で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の割合が大きくなった。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・毎回、PPTスライドをスマホで撮らせ、手書きノートにした場合には試験時に「持ち込み可」とすることで、復習を兼ねた学習時間の増加に繋がることを追求している。
- ・任意の課題として予習用紙の提出を求めている。毎回、提出する学生も一定数いた。また、全10回の宿題も課した。添削を丁寧に行っている学生も多く見られた。
- ・「次回に確認テストをするので、今までのレジメを読んでもらうように」とか、「配布した資料は来週使うので、必ず目を通しておくように」等の指示はしてきた。しかし、大人数の授業でもあり、実際に学生が予習してきたかどうかは確認できていない。

【質問8】この科目について、1回の授業時間以外に予習や復習のためにどの程度勉強しましたか。





①結果の概要

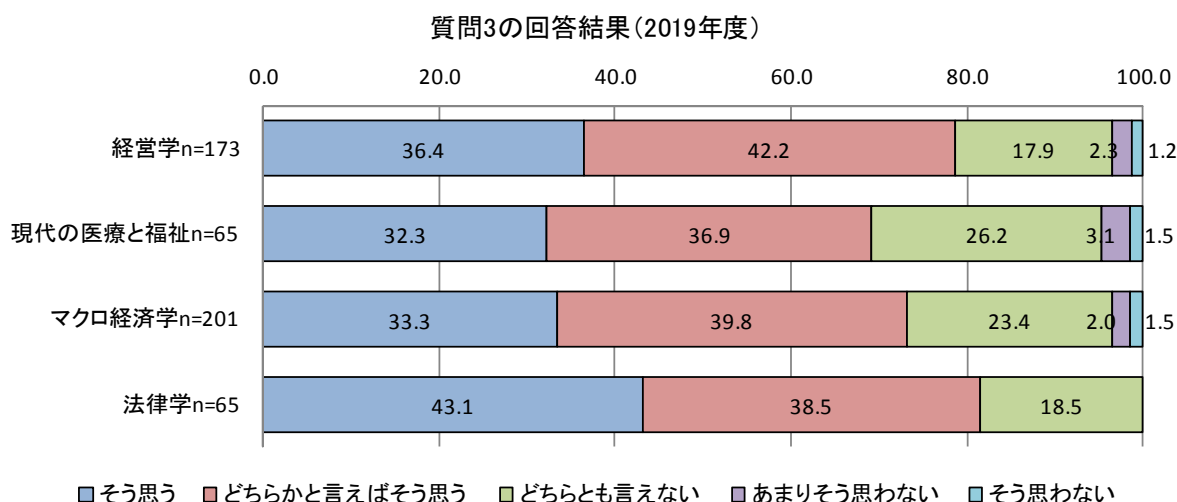
いずれの科目においても、2019年度に「30分未満」あるいは「30分以上」と回答した学生は50%以上を占める。しかしながら、2018年度と2019年度で比較すると、「30分未満」と回答した学生は減少した。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・ 期末アンケート質問8では、30分未満が21.9%なので、80%ほどが30分以上、予習あるいは復習を行っていることになる。

(2) 授業内容が理解しやすい教材に工夫する

【質問3】教材（テキスト、レジュメなど）は授業の理解に役立ちましたか。あてはまるものを1つ選んで下さい。



①結果の概要

教材が授業の理解に役立ったかを問う質問3に「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、いずれの科目も5%未満である。

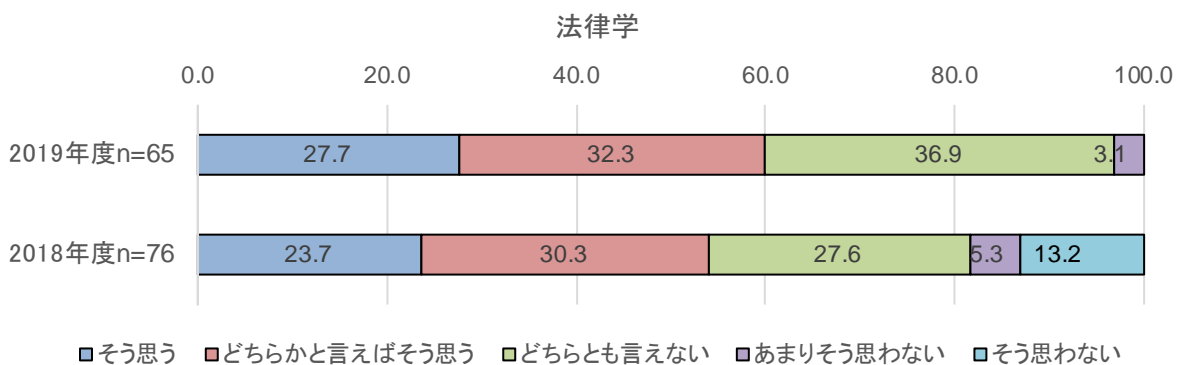
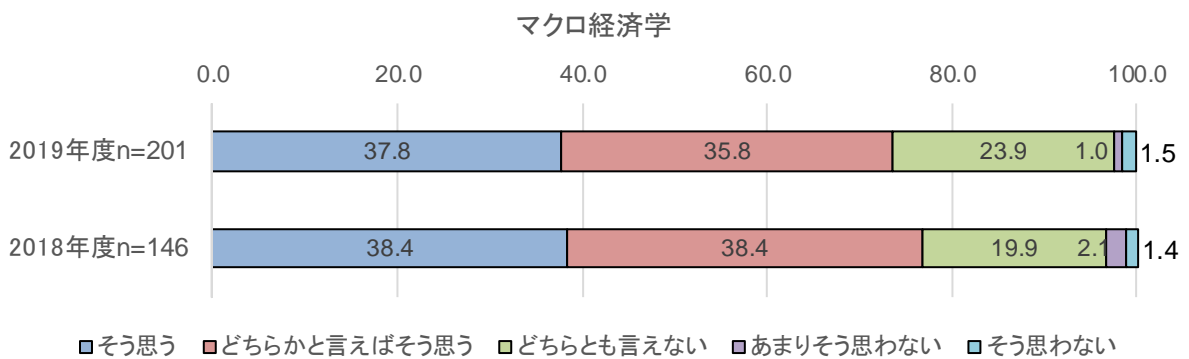
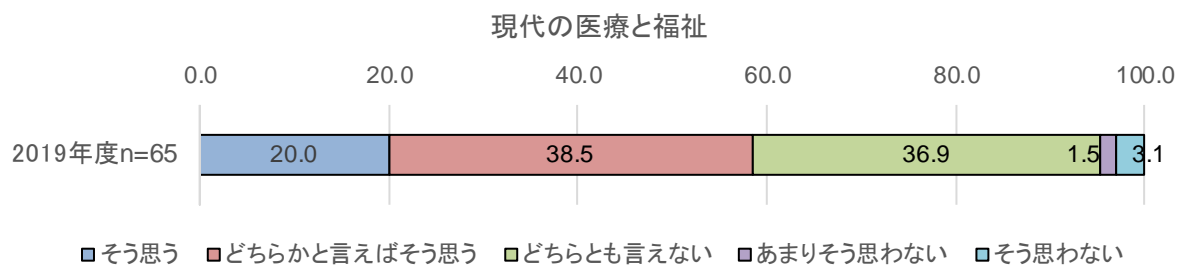
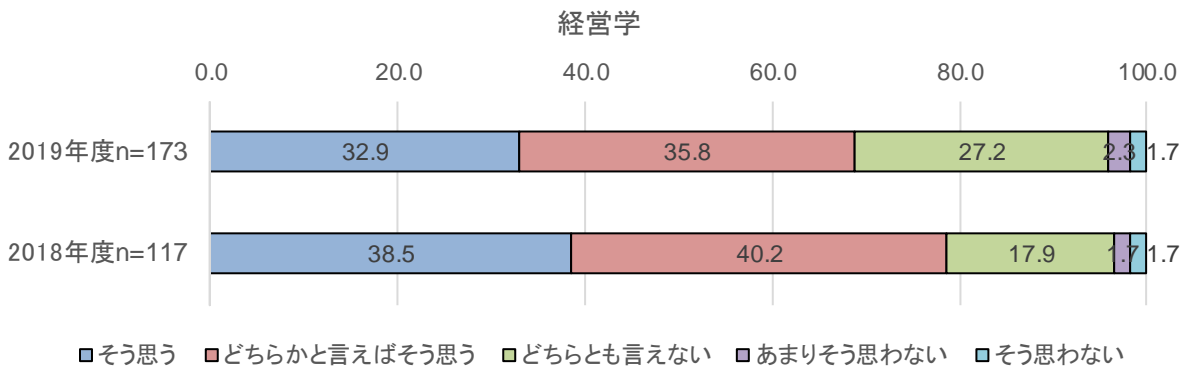
なお、「授業内容を理解しやすい教材を工夫する」が2018年度の重点課題ではなかったため、ここでは集計結果を2つの年次間で比較しない。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- PPTの改善を毎回心がけるほか、新聞記事の切り抜き等を提示して最新の情報を紹介し、テキスト内容との関わりをより適切に理解できるように努めている。
- 授業用プリントの配布を行わないことにした。授業用プリントは、開講期に nfu.jp 上に公開して、授業では各自プリントアウトして持参するか、ノートPC、タブレット端末、スマホで見れば良いことにした。学生が授業中にプリントを見ているかどうかのチェックとして、ときどき学生に質問を行った。さらに、宿題も解答を公開し、自己添削したものを提出させた。教員がすべてを用意するのではなく、必要な情報は事前に示すのでそれを自分で活用して学習できるようにしてほしいと考えた。なお、授業用プリント配布要望も出なかったため、今後もこの形式を続けようと考えている。
- パワーポイント資料のデータがやや小さめなときは、学生に前の方の席に着席するように促した。資料については、元データの表記が小さいものについては、拡大したものを貼った。

(3) 科目概要 (シラバス) に合致した授業進行について

【質問 10】 授業はシラバス通りにすすみましたか。



①結果の概要

授業はシラバス通りに進んだかの質問に「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、2019年度においていずれの科目も5%未満である。「あまりそう思わない」あるいは「そう思わない」と回答した学生は、2018年度、2019年度ともに少数

であるが、法律学で特に減少した。

②授業評価報告書に記載された教員の評価または取り組み

- ・ほぼシラバスどおりの進行になったと認識している。
- ・シラバス通りに授業を行った。
- ・制度についての背景を説明する時間がやや長くなってしまったことがあった。また、時事的な問題を取り上げている中で、一部シラバスと順番を入れ替えた部分もあったが、初回にそのようなことがありえることは学生に説明してあったので、その点は問題ではないと認識している。

4. 上記以外の取り組み事例

(1) 取りまとめた科目

実技・演習系科目を除く講義科目のうちの経済学部専任教員および招聘教員担当分
：26科目（報告対象科目を除く）

(2) 授業評価アンケートに対する教員の取り組み

- ・今年度は、政府提供の疑似マイクロデータを扱う時間を昨年度より多く設け、分析方法を実践的に活かせるよう工夫した。ただし、計量経済分析の具体的な理解と主体的な活用を促すには課題が多い。
- ・履修学生による模擬授業では、板書を苦手とする学生が多かったため、板書計画に関する授業外課題を2019年度に新たに課した。
- ・学習内容に対する理解が深まるよう、写真、地図、映像資料、地理情報システム（GIS）実習など様々な方法を授業に用いた。
- ・プリント、資料は配布せず、スライドに写したOneNoteを書き写させ計算させることで理解力を高めるようにした。
- ・総学習時間の増加は、次回授業で扱う範囲を伝え、テキストを読んでくるように指示したり、宿題として課題レポート（記述式2題）を出題したことによると考えられる。
- ・今年度も、記述欄を設けた出席票を毎回学生との間でやり取りした。記述欄には授業内容に即した簡単な設問についての答えやその他授業についての疑問点等を記入するよう指示したため、授業内容についての質問も寄せられ、簡単に解説を記入して返却したり、多くの学生が理解できていないと考えられる場合は、次回の授業の冒頭で再度説明を加えたりした。
- ・履修人数が少ないので、学生の近くまで行って授業理解を直接聞き取ることができたことが、授業の説明を行う上でやりやすかった面がある。また、毎回授業では質問や感想などを記入させるミニツレポートを課し、質問しやすい環境作りを行った。
- ・ここ数年の学生からの要望をなるべく取り入れてきた結果、どの項目も否定的な回答をした学生はいなかった。特に、授業では重要な箇所や、難しい箇所は、やや冗長になり

がちであるが3回ほど繰り返して説明している。存外、学生にはそのような説明方法でも肯定的に感じているのかもしれない。

- 毎回、授業の開始時に、前回の授業のポイントを指摘しまとめを行うとともに、授業の最後に、当該授業の内容のポイントのまとめを行い当該内容の理解を深めることに加え、次回の授業のおよそのポイントをあらかじめ指摘しておくことで、学生が予習・復習を行いやすくなるよう配慮した。
- 講義内容を深めるために、紹介した諸論文を読み、理解するための事前・事後学習に多くの時間が利用されている。
- シラバスで示された以上に、最新の研究成果を講義に組み込むことができた。
- 全員、事前に実践記録を読んでくること。レポーターはまとめと討論のテーマを考えてこなければならないので深い読み込みが必要。
- ゲストから事前・事後の学習課題が出され、なかには関心のある分野を調べ、2時間以上の学生もいた。ただし関心のあることだけを調べる傾向があり、思いのほか増加につながらなかった。
- 学生によっては、総学修時間が3時間以上の学生もおり2人1組で互いに問題を出し合う藤井先生の取り組みが活かされた。科目によっては1人でなく複数で勉強することで総学修時間を増やすことができる。
- 毎回、次のことを書かせて提出させた（自分が講義した時には授業終了後、ゲスト講師の講義の時には講義の翌週に提出）。本日の講義で、教員が伝えたかったことは何ですか？一言でいうと／もう少し詳しく言うと。本日の講義で、「理解できたこと」は何ですか？本日の講義で、「理解できなかったこと」は何ですか？
- 医療福祉経営は「人材不足」「専門職化」「法制度」「サービスマネジメント」などの分野では、他の業界では見られない特殊な部分があり、それらの背景をまず、学生が理解するように努めながら、一つ一つの各論部分も医療福祉の分野の特殊性も踏まえながら、理解できるように心がけている。
- 授業の中で、厚労省のHP資料や急性期・回復期等の医療機関の実務者を招き、実際どのように医療情報を経営や患者サービス改善に活かしているかをレクチャーしてもらい、医療や医療機関への関心を高めるようにしている。